

すばる科学諮問委員会報告

安田 直樹(カブリIPMU)

委員会メンバー

- すばる科学諮問委員会

台外委員(11名)

氏名	所属	職名	備考
伊藤洋一	兵庫県立大学・環境科学研究所	教授	留任
稲見華恵	広島大学宇宙科学センター	助教	留任
松岡良樹	愛媛大学 宇宙進化研究センター	准教授	新規
下西 隆	新潟大学教育研究院	准教授	新規
大栗真宗	千葉大学先進科学センター	教授	新規
和田武彦	宇宙科学研究所	助教	新規
佐藤文衛	東京工業大学理学院	教授	新規
小宮山裕	法政大学理工学部創生科学科	教授	新規
大朝由美子	埼玉大学教育学部/大学院理工学研究科	准教授	新規
河北秀世	京都産業大学理学部 宇宙物理・気象学科	教授	新規
諸隈智貴	千葉工業大学・惑星探査研究センター	主席研究員	新規

台内委員(2名)

伊王野大介	ALMA プロジェクト	准教授	新規
守屋 堯	科学研究部	助教	留任

- 2022年9月より新メンバーで発足
- 委員長は大栗さん

任期：2022年9月1日～2024年8月31日

IRD-SSP

- 中間審査を6月7日に行い、追加のレポートを提出してもらい、7月6日に最終的な審査を行った。
- プロポーザル提出時から改良された惑星形成の理論モデルでのシミュレーションの結果、惑星の発見数の期待値は少なくなることが分かった。
- しかし、IRDはユニークな装置であり、今後の観測を継続することによって、惑星形成の理解に貢献することが可能であると判断した。
- ただし、新惑星の発見だけにとどまらず、M型星の活動性など2次的な研究成果も関連の研究者と連携して進めることを推奨した。

PFS-SSP

- コミッショニング観測で得られるデータによる science verification を認めた。
- 得られた情報はコミュニティにも迅速に公開されることを条件としている。
- S23A, S23B については、PFSのコミッショニング、HSCでの継続的な観測、望遠鏡の改修などが競合する可能性があるので、観測所にうまく調整するようにお願いしている。

TAC

- プロポーザル審査におけるバイアス調査を行った。
- その結果、男女間で採択率に約2倍の差があることが分かった。
- Reviewerの男女比 (86%:14%)も影響していると思われるが、改善は容易ではない。
- S23Bの公募から Dual Anonymous Review を導入する準備を進めている。
- プロポーザルの書き方が変わるので、今後SACで議論した上で、UMで周知する。

